

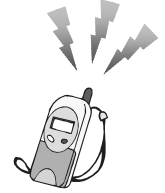
報告者：佐藤千鶴子さん (MELON 会員)

日時：2003年8月9日(土)、10日(日)

場所：仙台市民活動サポートセンター、  
住吉台コミュニティセンター

テーマ：暮らしの中の電磁波

講師：荻野晃也氏



参加者(75名)から、わかりやすく、おもしろかったという感想をいただき好評の中終了しました。内容の一部を紹介します。

電磁波の人体への影響については研究途上です(高圧送電線と小児白血病の関連性はほぼ認められてきている)。いまや国民の6割が使用する携帯電話の高周波(マイクロ波)の安全性の研究は開始されたばかりで、今後の研究、疫学調査を待たなければなりません。

ヨーロッパでは「予防原則」に基づき安全が確認されるまでは慎重に対処すべきと各国の放射線防護委員会が厳しい規制値を設け、携帯電話使用時の勧告も行っています。ですからワールドカップで来日

した記者達が「日本では子どもが使っている」と驚いたそうです。

日本では、「あきらかに危険性が証明されなければ安全」という考えのもと、規制値もゆるく設定され、利便性が追及されがちです。そして携帯基地局が住宅の中にどんどん建ちはじめました。その周囲で眠っている赤ちゃん達は、電波を浴びつづけるのです。荻野先生は社会的弱者である子ども達への影響を深く憂慮され、新しい技術導入には「予防原則」で対処すべきだと強調されました。

※講演会の資料が欲しい方は、MELON 事務局鈴木までお問い合わせください。

報告者：海藤節生さん(情報紙編集委員)

日時：2003年11月2日(日)

場所：七ヶ宿

テーマ：第2回水守人ミーティング in 七ヶ宿  
～水源の森に炭を置こう！～

快晴の中、題名の通り水源地「七ヶ宿」へ炭を置きに行ってきました。普段何気なく使っている水。地球上には1年間で400ミリしか雨が降らない国もあるそうです。そう考えると「今日も雨か」なんて沈んでいた雨の日もいつもと違って感じられ、ちょっぴり幸せになってきます。

さて今回第2回目ということで、我々の想いを七ヶ宿の町の人達に伝えたい。そう思い「街角仕事人くみあい」の一員として、仙台七夕で使った竹をランタンにして飾り最後に炭にしたその炭をはるばる運んで参加しました。あそこに降った雨が再び仙台の街に帰ってくるのはいつになるのか？その答えは誰にもわからないけれど、いつの日か遠い未来にきらきらと輝いて降りて来ると思うとわくわくします。

この日は、炭焼き体験や、炭団(“たどん”みなさんご存知ですか?)作りまで教わってきました。昔は本当に炭が貴重で炭の粉を丸めて最後まで利用したものが炭団だそうです。置き炭の前には全世界で炭焼きを広めている杉浦銀治さんという方の講演も

ありました。全部は語れませんが、木炭はpHが8.5もありその時できる木酢は2.3だそうです。ちなみに中性はpH7.0ですから、炭を焼くことでアルカリ性と中性の両方が作れるという先人達の知恵にただただ感心しました。本当に時計なんかいらなくなるくらいゆっくりとした一日をありがとうございました。



～誓いの言葉～

わたしたちの

いのちのみなもとのひとは 水です。

水を守ることは

山を守ること 森を守ることです。

もっとおいしい水を作るため

今ここで 私たちは森に炭を置きます

平成15年11月2日 湯原みどりの少年団